

## 元さんと二通の手紙 (中学生の道徳3 「自分をのばす」 あかつき)

【一文読み】 定年間際の動物園の模範的職員であった元さんが、幼い姉弟への同情心から規則を破って入園させ、その結果園内あげての大捜索になり、後日母親からの感謝の手紙と園からの懲戒処分の手紙を受け、晴れ晴れとした顔で職場を去っていった話。

※もとは懲戒解雇だったが、懲戒停職で自ら退職する話に変わってしまった。  
過ちを犯したら辞めるという話にならないように。

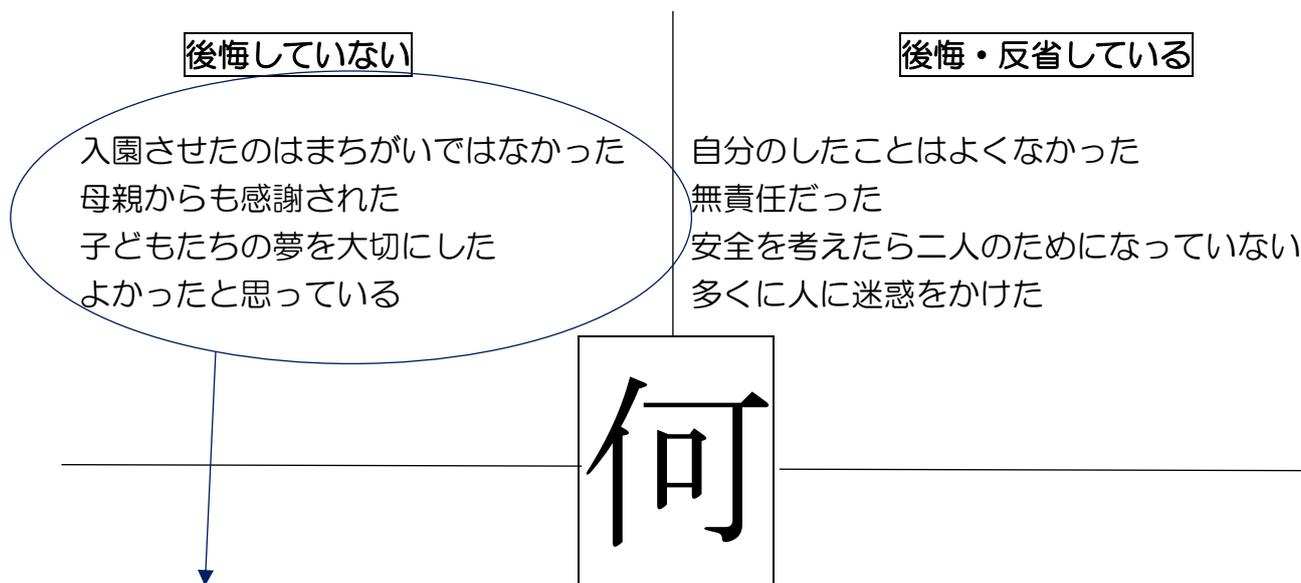
【内容項目】 C-10 (遵法精神、公德心)

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

【この時間でおさえること】

法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することは、規律ある安定した社会の実現に努めている。

【中心発問】 **元さんは、二通の手紙を並べて、何を考えたのだろうか？**



(なぜ、まちがいでなかった?)

(入園時間や保護者同伴のきまりは何のためにあるのか?)

(きまりやルールは何のためにあるのだろうか?)

きまりやルールはもしものためにある トラブルを回避するためにある

もし姉弟が事故にあっていたら、誘拐されていたら・・・

きまりやルールを守るからこそ、安全で安心して過ごせる

姉弟の安全や自分の生活を守ることができることに今更ながら気付いた

**これからの生き方 (道徳的価値)**